



宮城県環境生活部環境政策課

宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1
TEL022-211-2661 FAX022-211-2669

R100

環境省環境政策研究所 環境政策課

山・里山・湖沼・湿地・川・海
みやぎの自然に
会いに行こう



さあ青空の下で 自然体験

空を見上げてみよう。雲の形や空の色は季節によってちがうことが分かるはず。
たとえば、生い茂る樹木の枝のすき間から切り取ったように見える山の空、
視界をさえぎるものが何もない開放的な海の空…
眺める場所によっていろいろな表情が楽しめる。
宮城には自然がたくさんある。
青空の日は、好奇心を胸に、家族そろって出かけてみよう。



山や里山に 行こう ①



川に行こう 25



湖沼や湿地に 行こう 17



山・里山

湖沼・湿地

川

海

海に行こう 33



- みやぎの自然体験イベントカレンダー……………39
- 県自然環境保全地域・緑地環境保全地域……………41
- 環境学習に利用できる県内の施設……………41
- 地域指定・環境学習施設位置図……………43
- 市町村環境行政体制……………45
- ゾーン位置図……………47

山・里山 に行こう

山や里山は、季節の移り変わりを観察するのに最適の場所です。春、植物が芽吹き、夏は昆虫たちの宝庫となり、秋になると木々の葉が色づく紅葉を迎え、山は静かに冬支度をはじめます。さて、キミは春夏秋冬どの自然に会いに行く？



服装

動きやすく、自然の中に 溶け込める服を選ぼう

山に行くときは、ややゆったりめの服の方が動きやすい。ポケットの多いベストやジャンパーを着て行くと、図鑑や筆記用具など観察に使う細々した道具を入れるのに便利です。

・つばのある帽子・長ズボン・長そでのシャツ・ポケットの多いベスト(ジャンパー)・防寒着・雨着・運動ぐつ(トレッキングシューズならなお安全)など

持ち物

山歩きは身軽が一番、 両手は自由にしておこう

動物たちがすむ山は、平坦な道ばかりではありません。枝や石につかまらなないと歩けないような坂道もあります。リュックサックなら両手が自由に使えるので安全です。念のため軍手も持っていきましょう。汗をふくためのタオルと、水分補給の水も忘れないで。

・リュックサック・軍手・水筒・タオル・ポケット図鑑・ガイドマップ・救急用品・筆記用具・ノート・双眼鏡・カメラ・虫メガネなど

気を つけよう

あるがままの自然を 静かに観察しよう

動物や植物などを観察するときには、自分本位な行動を取らないことが大切です。たとえば、動物たちが驚くことを考えずにストロボをたいて撮影したり、木の枝や草花を手で折ったり…。野鳥を発見しても、すぐにカメラを使わず、まずは動きなどを観察してからノートに記録するのも一つの観察法です。また、ゴミは必ず持ち帰りましょう。

自然を 知ろう

木の中心部は古い年輪、 外側は新しい年輪

年輪の幅は成長を示しています。幅が広い層は木の成長が盛んな春から夏にかけて、幅が小さい層は活動が衰える秋から冬にかけて作られた年輪。また、方角や成育がよいか悪いかも層の幅から判断できます。そのため大木では、年輪から気候の変動や森林の変化がわかるのです。



なるほど コラム

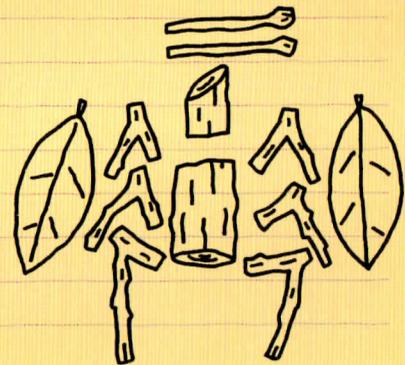
ドングリを植えてみよう

日本には、土壌水分が多い所になるクヌギや、少し乾燥した場所に多いコナラ、食べることができるマテバシイやスタジイなど、ドングリがなる樹木が18種類分布しています。ドングリを拾って、日当たりのよい場所にかくれる位の深さ(2~3cm)に横にして1~3粒まとめて埋め、乾燥させないように育てると、8割程度は発芽します。

遊んで みよう

山には遊びのものがいっぱい、 小枝や落ち葉で何か作ってみよう

山を歩いていると、いろいろな形の枝が落ちていきます。曲がった枝、枝分かれした小枝…。秋なら落ち葉もあります。それらを思いつくまま切ったり貼ったり色づけすれば、自然観察の思い出の作品になりますよ。



見どころいっぱい 水と緑の大渓谷

二口渓谷ゾーン

日本三名瀑の一つ秋保大滝をはじめ、国の名勝磐司岩など、県立自然公園二口峽谷には自然豊かな見どころがたくさんあります。



磐司岩

豊かな自然にくらす 貴重な動物たち

険しい山が多く、豊かな緑に囲まれた二口渓谷は、磐司岩付近や神室岳、三方倉山付近にニホンザルや、特別天然記念物のニホンカモシカといった貴重な動物が生息しています。ほかにもツキノワグマ、ホンダキツネやホンダヌキなど、さまざまな動物が観察できる貴重な地域です。

二口散策の拠点 秋保ビジターセンター

二口渓谷自然遊歩道入口にある秋保ビジターセンターでは、二口周辺の野生動物や植物、地質などを分かりやすく紹介しています。二口散策時にはぜひ立ち寄りた施設です。

●問い合わせ先/022-399-2324 (秋保ビジターセンター)

緑豊かな二口渓谷は まさに深山幽谷の世界

名取川の最奥部となる二口渓谷は、豊かな緑の中を渓流が流れる美しい渓谷です。秋保ビジターセンターから、雑木林の中を進む二口渓谷自然遊歩道からは、磐司岩を眺めることもできます。

●問い合わせ先/022-398-2323 (秋保温泉郷観光案内所)

珍しい生物たちの 貴重な生息域

二口渓谷の小さな渓流には、全国的に見ても数ヶ所しか産卵場所が確認されていないハコネサンショウウオの幼生が数多く生息しています。また、国蝶に指定されているオオムラサキやヒメギフチョウなどの貴重なチョウ類も見られます。

二口渓谷のシンボル 名勝「磐司岩」

山形県境の二口峠へ向かう途中に、柱状の岩層が奇観をなす国指定の名勝磐司岩があります。谷底から高さ600m、東西3kmにわたるその姿は訪れる人々を驚嘆させます。また、岩壁にはイワキンバイ、シコタンソウなどの貴重な植物群落がみられます。



渓流の流れにそって進む二口渓谷自然遊歩道入口

から約2.3km、徒歩35分で姉滝、妹滝という二つ並んだ滝を見ることができます。左が姉滝で、右が妹滝です。秋保ビジターセンターで野生動物や植物の情報を仕入れていくと、さらに散策が楽しくなります。



都心部近くの 貴重な緑多き山

太白山・蕃山ゾーン

都心部に近く手軽に自然と親しめる仙台市街西部の太白山、蕃山、斎勝沼では、豊かな緑のほかに貴重な動植物も観察できます。



太白山自然観察の森

市民に親しまれる 太白山は自然の博物館

仙台市街の近くにあつて自然環境豊かな標高321mの太白山には、コナラ・ケヤキなどの落葉広葉樹をはじめ、数多くの植物が生育しています。また、ヒメギフチョウや国蝶のオオムラサキも生息するなど優れた自然の宝庫であり、県自然環境保全地域に指定されています。

自然を豊かに体験学習する 太白山自然観察センター

太白山自然観察の森の太白山自然観察センターには、展示室や読書コーナーなどがあるほか、自然解説員が常駐し、自然とふれあいがながら地形や地質、植物や動物など、身近な自然を学習することができます。

●問い合わせ先/022-244-6115 (太白山自然観察センター)

緑に囲まれた斎勝沼には ニッコウキスゲも見られます

豊かな緑に囲まれた斎勝沼近くの小沼周辺の湿地には、都市近郊では珍しく、黄色いニッコウキスゲや紅紫色の花を咲かせるトキソウが育成しています。斎勝沼は蕃山とともに県緑地環境保全地域に指定されています。

貴重な動植物が生息する 蕃山周辺

蕃山、西風蕃山、蛇体蕃山、萱ノ森などの峰からなる蕃山は、仙台近郊の緑地として貴重な地域になっています。とくに西風蕃山の頂上にはモミ・イヌブナの林が残され、特別天然記念物のニホンカモシカのほかツキノワグマなども生息しています。

歴史深い大梅寺には 有名な老木が根を張ります

松島の瑞巖寺を再興した雲居禪師が、慶安4(1651)年に開いた庵を元に、仙台藩2代藩主伊達忠宗が創建した大梅寺。境内には梅の木のほか、樹齢500年、高さ20mの仙台市指定天然記念物のヒヨクヒバがあります。



蕃山には大梅寺バス停前と栗生登山口の二か所から

入ります。大梅寺から蕃山開山堂を經由して西風蕃山へ行く方が約3.2kmあるものの歩きやすく軽登山向き。1時間半ほど到着します。また、太白山へは自然観察の森から約2kmの遊歩道があり、1時間ほどで山頂です。





材木岩

天然記念物が点在 寒成山周辺

寒成山周辺ゾーン

白石市南西部小原にある寒成山には、独特の風穴群が見られます。周辺には国の天然記念物が点在するなど興味深い地域です。



寒成山の崩壊地形と 無数の風穴

寒成山は小原の材木岩の対岸、「虎岩」の背後にそびえる標高約621mの山。山の北東部が滑り落ちた崩壊地形で、堆積物によって斜面の下にできた窪地は、寒成山風穴群と呼ばれる無数の風穴をつくっています。独特の風穴植物が見られ、地形的にも植生的にも貴重な地域です。

材木岩の対岸は ヨコグラノキの北限地帯

寒成山の崩壊した岩山が累積した場所には、イタヤカエデが混生するケヤキの自然林が見られます。また材木岩対岸の「虎岩」の絶壁には国指定天然記念物のヨコグラノキが自生。東北では唯一の自生地、この地が分布の北限とされています。

巨大な材木を並べたような 材木岩の奇観

石英安山岩が地表に噴出し、急速に冷えて固まってきたとされる材木岩は、高さ65mの巨大な材木を垂直に並べたような光景。眼下には白石川の渓流を楽しめる材木岩公園もあり、対岸には輝石安山岩が虎の縞模様のように見えることから名付けられた「虎岩」がそそり立っています。



七ヶ宿ダム周辺には 自然に親しめる公園が多い

七ヶ宿ダムは、仙南一円と仙台市民の生活をうるおしている多目的ダム。周辺には自然環境を生かした公園が多く、水と石との語らいの公園には大小の池や滝、噴水などがあり水遊びが楽しめます。また材木岩公園では川遊びを楽しむながら材木岩を眺めることができます。



七ヶ宿湖周辺には、水とふれあえる施設がいくつかあります。特に水と石との語らいの公園は河川に向かって階段状の広場が設けてあるので、気軽に河川に下りれます。材木岩、七ヶ宿ダム、白石川が一体となった広がりのある景観が作り出されていることが分かります。

火山活動の勇姿 蔵王連峰

蔵王・澄川ゾーン

渓谷、湿原、噴火口など特異な地形をもつ蔵王国立公園内蔵王連峰。高山植物やブナ林、貴重な野生鳥獣など多彩な動植物の宝庫です。



ことりはうす

不動滝、三階滝など 名高い滝が多い澄川渓谷

遠刈田温泉から蔵王山頂に向かう道沿いにあるのが澄川渓谷。高さ53.5mの不動滝や、日本の滝百選にも選ばれた高さ181mの三階滝など、名高い滝が多く、美しい景観を楽しめます。

●問い合わせ先/0224-33-2215 (蔵王町観光協会)

標高によって種類が違う 蔵王の林

蔵王の植物は標高によって分布し、標高1700m以上の高山帯はハイマツ低木林、標高1300~1700mの亜高山帯は、樹氷で有名なアオモリトドマツ林、標高500~1300mの山地帯は、ナラやシラカバなどが混生するブナ林、標高500m以下の丘陵帯はコナラ林を構成しています。

高山帯にはホンドオコジョ 丘陵帯にはサンショウウオ

蔵王の高山帯には、高山獣として有名なホンドオコジョが生息しています。山地帯の森林には、特別天然記念物のニホンカモシカや、天然記念物のヤマメなどが生息。丘陵帯の林内にはトウホク、クロ、ハコネの3種類のサンショウウオなどが生息しています。

気軽に観察できる探鳥地 蔵王野鳥の森

蔵王連峰、後鳥帽子岳の裾野に広がる野鳥の森は、コナラを主体とした二次林がほとんどですが、太く伸びたアカマツ、カラマツ林にも中低木草が発達しており、自然林としても違和感がありません。新緑の頃、澄川を望む北斜面ではブナ林中のヤシオツツジが見物です。

宮城の自然や野鳥について 楽しく学べることりはうす

平成6年に開館した自然観察センター「ことりはうす」。館内には蔵王の自然を紹介するコーナーや、水鳥が集まる蒲生干潟や伊豆沼・内沼など県内各地の自然も紹介。鳥の科学コーナーでは、鳥の飛び仕組みなどを学べます。

●問い合わせ先/0224-34-1882 (ことりはうす)



自然観察センター「ことりはうす」を起点に蔵王野鳥の森に入ると、ウグイス、カッコウ、メジロコースなど多くの観察路があります。最も長いコースだと、鳥を探しながら約4時間の行程です。



谷山の九十九谷に 守られた自然郷

谷山自然公園ゾーン

県自然環境保全地域に指定されている景勝地。九十九谷の険しい地形に守られた、貴重な自然に出合えます。



ハイキングコース

谷山石橋やピッチ岩 変化に富んだ自然美

谷山石橋は長さ15m、空洞部の高さが4mの見事な天然橋。天狗の修行の場とも伝えられ、別名天狗橋。他にもピッチ(カエル)の姿に似た岩やなでなで岩など珍しい景観が見られます。

●問い合わせ先/0224-83-2111 (村田町商工観光課)

樹齢100年を超える イヌブナやアカマツの大木

急峻な斜面にはイヌブナ林、尾根筋にはアカマツ林が発達。中には樹齢100年を超える大木も見られます。サクラスミレやトウゴクミツバツジ、クワガタソウなど貴重な山野草にも出合えます。ハイキングコース付近にあるミズバシヨウの群生地も見逃せません。

国の特別天然記念物 ニホンカモシカも生息

動物では岩登りが上手なニホンカモシカや、トウホクノウサギ、ホンドギツネなど、野鳥では雄のコバルトブルーの背が鮮やかなオオルリや、水辺にすむヤマセミなどが生息。ハイキングコースには、こうした動植物の案内板があるので参考にしましょう。

野外活動センターでは アウトドアを楽しんで

野外活動センターではキャンプや芋煮会、椎茸狩りなどが楽しめます。村田ダムは農業用水用ダムで自然と調和した景観が見事。ふれあい栗園では特産の仙台栗が味わえます。

●問い合わせ先/0224-83-4407 (野外活動センター)
0224-86-2210 (谷山ふれあい栗園)

馬を飼う人々が信仰した 松尾観音堂

ハイキングの休憩地にもなっている松尾観音堂は、約500年前の創建と伝えられる宝形造りのお堂。銅製の馬頭観音を本尊として安置し、昭和初期までは馬を飼う人々から厚く信仰されていました。現在では縁結びや家内安全を祈願する人が訪れています。



谷山自然公園には全長約7km、2時間半のハイキングコースが整備されています。獅子の子落としの長い上り坂やなでなで岩、最大の難所馬の背を越えれば一目千両台のすばらしい眺めが楽しめます。その先は谷山石橋、野外活動センター、村田ダムなど各方面に足を延ばせます。



深山周辺に残る 貴重な自然の面影

深山緑地ゾーン

阿武隈山地の北部に位置する標高287mの深山周辺は、県緑地環境保全地域に指定され、自然観察路なども整備されています。



深山自然観察路

亘理地壘山地の ほぼ中央に位置する深山

地壘山地とは、地層の両側が断層でずれ落ち、中央部だけが残った帯状の山地のこと。亘理地壘山地は角田盆地と亘理・山元の沿岸部を区切って連なり、そのほぼ中央に深山があります。

●問い合わせ先/0223-37-1120 (山元町環境保全課)

ケヤキの自然林が残る 深山周辺

深山の稜線を境に、山元町側の東斜面にはスギやアカマツの植林地が広がっています。一方、角田市側の西斜面はほとんどがコナラ・クリ林でおおわれています。また山頂付近にはケヤキの自然林も残されています。

ヒヨドリやカシラダカなど 多くの野鳥が生息する深山

深山周辺では、ヒヨドリやウグイスなどの留鳥、サンコウチョウやカッコウなどの夏鳥、この地域でカッシャと呼ばれるカシラダカや、ベニマシコなどの冬鳥などが生息しています。また山元町内にはハクチョウやカモの飛来地として知られる水神沼や、野鳥の森もあります。

自然観察路などが整備された 深山山麓少年の森

深山山麓少年の森には自然観察路、マウンテンバイクなどのサイクルコース、フィールドアスレチック施設などが整備されています。自転車も貸してくれるので手軽にサイクリングが楽しめます。秋には芋煮会などでにぎわいます。

●問い合わせ先/0223-37-3150 (山元町深山山麓少年の森)

内町溜池の鎮守の森に残る 常緑広葉樹林

深山を中心とする丘陵地の西端に位置する角田市の内町溜池。この周辺は金比羅大権現を祭る鎮守の森として守られ、ウラジロガシ、ヤブツバキ、シラカシなどの常緑広葉樹林が残されており、自然の面影を残した貴重な林となっています。



深山自然観察路は深山山麓少年の森を起点に、山頂まで3コースあります。各コースの距離は約2.0km~2.1kmで、所要時間は約60分~70分。途中には休憩所などが整備され子供も安心して歩ける道です。深山山頂から約10分で最高峰の鷹討山(標高310m)にも行けます。



貴重な自然が残る 雄大な船形山

船形山・升沢自然遊歩道ゾーン

御所山とも呼ばれる県立自然公園船形連峰の主峰船形山には、遊歩道や登山道があり、豊富な自然を楽しむことができます。



桑沼のモリアオガエル

貴重な植物や動物がすむ 広大な山岳公園

船形山を主峰とする県立自然公園船形連峰は、様々な湖沼や渓谷、溪流など、美しい自然が残され、ハイマツの低木林やブナ低木林などの原生の植物をはじめ、特別天然記念物のニホンカモシカ、モリアオガエルなどの貴重な生物が生息しています。

船形山の自然を満喫 升沢自然遊歩道

船形山の登山基地升沢の入口から、割山断崖などを通り旗坂キャンプ場に通じる約5kmの遊歩道。ブナやサワグルミの原生林をぬい、滝や断崖など自然の豊かさが実感できるコースです。多彩な自然に親しむことができ、特に紅葉は絶景です。

荒々しい岩肌が 力強さを感じさせる割山断崖

升沢自然遊歩道では、散策の途中で荒々しい岩肌が自然の雄大さを感じさせる、高さ50m割山断崖をみることができます。近くには2~3mの高さから流れ落ちる割山小滝があり、変化に富んだ景観を楽しめます。



ブナの原生林をぬうように進み、滝や断崖、沼などの景観が楽しめる升沢自然遊歩道は延長約5km、2時間のコース。木道なども整備されているので、家族連れでも気軽に自然散策を楽しむことができます。



万葉植物の森で 身近な自然を体感

昭和万葉の森ゾーン

日本最古の歌集「万葉集」に詠まれた植物は萩や梅、松、桜などそのほとんどが県内に自生。今も身近に親しまれる植物です。



湿性植物園

昭和天皇御在位60年を記念した 森林公園

昭和30年、昭和天皇をお招きし、大衛村で第6回全国植樹祭が開催されました。この会場となったアカマツ林と落葉広葉樹林一帯22.65haが、昭和天皇御在位60年を記念し、昭和万葉の森として整備されました。

●問い合わせ先/022-345-4623 (昭和万葉の森管理事務所)

湿性植物園、しだ植物園など 観察コーナーも随所に

遊歩道沿いには、万葉植物のうちショウブ、スイレンなど湿性の植物を集めた植物園、ワラビ、ゼンマイなどシダ科の植物を集めた植物園、コウゾ、ミズキなど民芸品の材料となる植物を集めた民芸の森など、さまざまな観察コーナーが設けられています。

万葉植物記念林には 約154種の万葉樹木が勢揃い

昭和万葉の森で見られる植物は約520種。そのうち万葉植物は約220種あります。万葉植物記念林にはそのうち約154種の樹木が集められ、スモモ、ウメ、クワ、ヤマブキなどの木々が歌碑とともに楽しめます。



公園内には総延長は約5.6kmの遊歩道が整備され、その遊歩道沿いにかたくりの池、湿性植物園、シダ植物園、万葉植物記念林など見どころや遊び場が点在。園内は自由散策で周遊時間は1時間。あずま屋からは船形連峰やセツ森が望めます。月曜日休園。



巨人伝説が残る 緑豊かな七つの山

七ツ森ゾーン

まつくら おおくら なでくら はちくら とがくら
松倉山、大倉山、撫倉山、蜂倉山、遂倉山、鎌倉山、笹倉山。なかよく、肩を並べのように七つの山々が連なっています。



七ツ森

のどかな風景の中に 連なる七つの山々

大和町ののどかな田園地帯の中に、美しい景観をつくり出している県立自然公園船形連峰内の七ツ森。豊かな自然と伝説につつまれた、美しい里山の姿です。撫倉山の頂上では、360°のパノラマを楽しむことができます。

●問い合わせ先/022-345-1111 (大和町商工観光課)

湖畔の自然の中で キャンプや陶芸体験

七ツ森湖畔には、公園の他さまざまな施設もあります。テントサイトやバンガローがある「七ツ森ふれあいの里」、焼き物を楽しめる「陶芸体験館」。「ダム資料館」では、南川ダムの建設の歴史やダムのしくみなどがパネル展示されています。

七つの山々をつくった 巨人の伝説

昔、朝日奈三郎という力持ちの大男が、弓の稽古の標的づくりのためタンガラ（土を背負って運ぶ道具）に土を入れ、七回運んでできたと言われているのが七ツ森です。その時に土を掘ったところが品井沼、足跡が吉田川になったと伝えられています。



七ツ森自然遊歩道は延長約6km、2時間半の遊歩道。草木が芽吹く4月の下旬から、ヤマザクラやユリなどの山野草の花が咲くころ、秋の草花や紅葉のころが散策には最適です。また、七ツ森湖に最も近い鎌倉山にも遊歩道が整備されています。

七ツ森湖畔公園には さまざまな施設が充実

七つの山々の西側に位置する七ツ森湖は、吉田川の支流・南川につくられた総貯水量1,000万トンという広大なダム湖。湖周辺には、四十八滝運動公園、宮橋公園、立輪水辺公園から成る七ツ森湖畔公園があります。春の桜、秋の紅葉など、四季折々に美しい自然とふれあえます。

大パノラマも楽しめる 七ツ森自然遊歩道

七ツ森湖から伝説の山々の間をぬい、広大な山岳寺院だった信楽寺跡までをたどる七ツ森自然遊歩道は、大自然の眺めを楽しみながら天然林の中を進む道。撫倉山山頂への道と遊歩道の分岐点にあるおどろぎ展望台からは、周辺の美しい景観を楽しむことができます。



千本松長根に 古街道の面影

かみ 上街道ゾーン

上街道は奥州街道よりも古く、平安時代には平泉へ向かう幹線道路でした。松並木や一里塚に、古街道の面影を残しています。



千本松長根

千本松長根など 名所も多い上街道

上街道は歴史の道として保存整備された国指定史跡です。上野目から真山にかけて、約9.5kmにわたって続く道には千本松長根や、馬が鼻をこするぐらい急のために名づけられた鼻こくり坂など名所も多く、遠くには栗駒山が望めます。

●問い合わせ先/0229-72-1211 (岩出山町商工観光課)

約1.5kmの尾根伝いの 両側に続く千本松長根

尾根伝いの両側に約1.5kmにわたって続く松並木は千本松長根と呼ばれ、古街道の面影が残る名所です。往時の松の大木は戦時中、松根油を採取するために掘り起こされましたが、戦後植林されて現在に至っています。道の両側には岩出山の町花ヤマユリも咲いています。

森や林にはオオムラサキや ハッチョウトンボの姿も

上野目から真山にかけては、森や林が多く、昆虫の多い場所です。国蝶といわれるオオムラサキや、日本一小さい体長約2cmのハッチョウトンボ、青白色の粉でおおわれた美しいオオシオカラトンボなども見ることができます。

自然の中で楽しく過ごせる いこいの森

町西部にはスギやアカマツなどの針葉樹に包まれたいこいの森があり、たくさんの山野草に親しめます。キャンプ場やフィールドアスレチックもあり、春は花見、秋は栗拾いや芋煮会が楽しめます。

●問い合わせ先/0229-72-0947 (いこいの森管理塔)

天王寺一里塚は 全国的にも珍しく対で現存

江戸時代、主要街道には一里ごとに盛土した一里塚を築き、松や榎を植えて旅人の目印にしました。天王寺一里塚は街道の両側に対になって現存しており、全国的にも珍しいものです。源頼朝が平泉藤原氏討伐に向かい、松尾芭蕉も通った上街道には数々の史跡が残されています。



上街道は総延長約9.5km、2時間の道が、古来の面影を残すように保存整備されています。途中には潜松古墳群、千本松長根、鼻こくり坂、天王寺一里塚などの名所旧跡が点在。随所にあずま屋やベンチがあり、栗駒山を眺めながら散策が楽しめます。





白糸ノ滝

原生林が残る秘境 寒湯番所跡周辺

寒湯番所跡周辺ゾーン

寒湯番所跡周辺には白糸ノ滝、浅布溪谷などの景勝地があり、イヌブナ林などの貴重な自然林が残されています。

浅布溪谷のアカシデ林 切留のイヌブナ林

浅布溪谷の両岸は、鳴子峡谷と同様の植生を有し、ヤマモミジやハウチワカエダなどが混生するアカシデ林でおおわれ、秋には美しく紅葉します。また花山村の切留には、アカシデやミズナラなどの落葉紅葉樹を含むイヌブナ林の貴重な自然林が残されています。

森の世界が楽しく学べる こもれびの森・森林科学館

村の南部の草木沢には、樹齢200年以上のブナの天然林や、野生鳥獣などが観察できるこもれびの森が整備されています。敷地内の森林科学館では、森の仕組みなどをパネルやマルチビジョン、パソコン検索などで楽しく学べます。

●問い合わせ先/0228-56-2330 (森林科学館管理事務所)



新緑と紅葉が美しい 白糸ノ滝、浅布溪谷

白糸ノ滝は、ブナやモミジなどの原生林に囲まれた高さ45mの秘境の滝。浅布溪谷は、浸食された岩の造形美が約4kmにわたって続く景勝地。どちらも新緑と紅葉の季節が見事です。

●問い合わせ先/0228-56-2111 (花山村企画課)

ニホンカモシカなど 野生鳥獣が数多く生息

栗駒山麓の大自然に抱かれた花山村には、ニホンカモシカやニホンリス、シジュウカラ、キビタキなど野生鳥獣が数多く生息しています。また、花山溪谷や浅布溪谷などの清流は、イワナやヤマメの宝庫として知られています。

秋田藩との境界に置かれた 花山村寒湯番所跡

花山村寒湯御番所は藩政時代、秋田藩へ抜ける街道に置かれた関所です。表門は総ケヤキ造りで茅葺き屋根、くさび止めの四脚門で、往時のままに息づいています。国指定史跡。

●問い合わせ先/0228-56-2085 (花山村寒湯番所)



寒湯番所跡から白糸ノ滝までは約3.4km、1時間15分

あります。一迫川に沿って上流へ向かい湯湯温泉を過ぎて吊り橋を渡って行きます。浅布溪谷は寒湯番所跡から約4.5km、一迫川を下流へ向かいます。こもれびの森・森林科学館は浅布溪谷の南方にあります。

花や鳥や動物 大自然が息づく山

栗駒山ゾーン

栗駒国定公園内栗駒山は標高約1,628m。東北でも数少ない美しい自然が残り、高山植物や多くの鳥獣が生息しています。



世界谷地のニッコウキスゲ

栗駒の高山植物と出会う 中央登山コース

栗駒山山頂への登山道は4本あります。中でも気軽に歩けるのが、イワカガミ平が登山口の中央コース。登山道周辺は亜高山帯で、低木林が続き見晴らしがよくなっています。山頂直下では雪が遅くまで残り、周囲にはヒナザクラなどの高山植物も群生しています。

ミズバショウ、ニッコウキスゲ など世界谷地は花の宝庫

栗駒山のゆるやかな南斜面に広がる世界谷地(広い湿原という意味)では、5月中旬のミズバショウに始まり、ワタスゲ、ニッコウキスゲ、レンゲツツジ、などの高山植物が9月ごろまで次々に咲き競います。遊歩道が設けられていて、湿原の自然を観察できます。

ほ乳類、鳥類、昆虫など 多くのいのちを育む栗駒山

栗駒山には、オコジョ、ツキノワグマ、カモシカなどの高山獣が生息しており、一部は鳥獣保護区特別保護地区になっています。湿原では、ウグイス、カッコウ、ホトトギスなどの野鳥や、アキアカネ、ルリボシヤンマといったトンボなども見られます。

自然とふれあい、 自然を体験する2つの施設

アウトドアスポーツや農園体験なども、自然を知る手がかりになります。カントリーファームではイチゴ摘みなどが体験でき、自然学校ではアウトドアライフについて学べます。

●問い合わせ先/0228-46-2626 (くりこま高原自然学校)
0228-46-2141 (くりこま高原カントリーファーム)

栗駒山に発する清流で、 イワナの養魚

イワナは山あいの清流にすむサケ科の淡水魚。栗駒山の麓にはイワナの養魚場があり、栗駒のきれいな水で天然に近い状態で育てられています。併設の釣り堀は親子で楽しめます。

●問い合わせ先/0228-46-2126 (熊谷養魚場)
0228-46-2136 (数又養魚場)



麓から「イワカガミ平」までは自然観察スポットが点在。

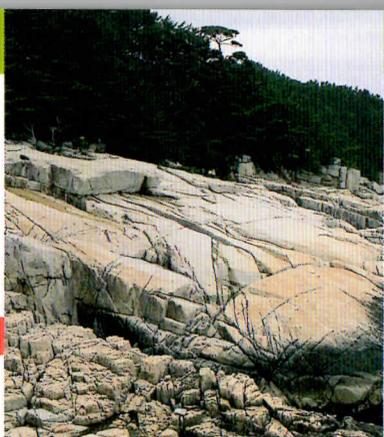
そこから先は登山道になり、中央登山コースは約3km、登り1時間半、下り1時間のコース。世界谷地は駐車場から約500mで第一湿原、さらに約1km先には第二湿原が広がり、遊歩道を散策できます。



神の使いがすむ 自然豊かな金華山

金華山ゾーン

牡鹿半島沖にある金華山は、原生林が豊かに残り、野生の鹿や猿などのすみかとなっています。



千量敷

神の使い「鹿」の楽園 鹿山公園

金華山には古くから野生の猿や鹿が生息し、鳥獣保護区の特別保護地区に指定されています。中でも鹿は全島で約500頭、鹿山公園には約150頭がすみ、神の使いとして保護され、毎年10月の第1・第2日曜日に行われる鹿の角切りは有名です。

●問い合わせ先/0225-45-2114 (牡鹿町産業観光課)

金華山で見られる 様々な奇岩や海食岩

南三陸金華山国定公園内にある金華山は牡鹿半島の沖合1kmにある周囲26km、海拔445mの花崗岩の島です。「天柱石」という大岩や「千量敷」、「百量敷」などの奇岩がいたるところで見られます。植生も豊かでブナ、イヌシデ、モミなどの原生林が生い茂っています。

金運、開運、商売繁盛の神 黄金山神社

奥州三大霊山に数えられる金華山の中腹にある黄金山神社は、涌谷において日本で初めて金が産出されたことになみ創建されました。金運、開運、商売繁盛の神として信仰を集め、3年続けて参拝すると一生お金に困らないという言い伝えがあります。

●問い合わせ先/0225-45-2301 (黄金山神社)



金華山へは鮎川港から観光定期船で約30分、徒歩約10分ほどで黄金山神社へ。黄金山神社から1.4km、約70分ほど歩くと金華山山頂。観光棧橋から灯台への約4.4km、90分のルートは、時折海が見える美しい道です。

白亜の洋風灯台 金華山灯台

金華山沖を往来する船舶の航海を、安全に導く白亜の洋風灯台は、明治9年に建てられました。高さ12.8m、明るさは32万カンデラで、10秒ごとに紅白の光を交互に発し、海上35kmの範囲を照らします。灯台には音波や電波の航路標識も古くから整備されていました。

伊達政宗と鹿にまつわる 言い伝えが残る「千人沢」

太平洋に面した量千枚にも及ぶ広さの岩の海岸「千量敷」の手前にある「千人沢」は、昔伊達政宗が金華山で鹿刈りを催したため、海神の怒りに触れ、従者千人が落ちて死んだと伝えられています。林間に広がる見通しのよい沢です。



ホタルが舞う のどかな山の里

鱒淵川周辺ゾーン

緑の木々に囲まれた清流沿いに、静かにたえず、ふれあいの里。町の人々が大切に守ってきた自然がやさしく迎えてくれます。



鱒淵川のゲンジボタル

山あいから流れてきた清流に 豊かな自然の息吹き

深い山あいでも生まれた源流が、ホタルが群棲する鱒淵川の清流となって流れ、二股川に、そして北上川に合流します。鱒淵川沿いは、オオルリ、カッコウ、ホトトギスなど自然観察の格好のポイントになっています。

●問い合わせ先/0220-53-4105 (東和町商工特産課)

ホタルの川を守るため 地域ぐるみで保護活動

鱒淵川のゲンジボタルは国の天然記念物に指定されています。6月下旬から7月上旬が観賞期間で、岩瀨橋から源氏ボタル交流館までの約1kmの区間が見学ポイント。また昭和60年には、雨でホタルのエサになるカワニナが流出するのを防ぐため、河川バイパス工事が実施されました。

カヤの大木がある頼光寺 周囲に自然遊歩道がある華足寺

このエリアは、樹齢数百年のカヤの木がある頼光寺や、菜の花の群生、ハスの花咲く池がある華足寺など史跡や社寺の多い地域です。華足寺の周囲は県の自然環境保全地域に指定され、自然遊歩道が伸びているので、ゆったりと四季の草花を散策できます。



鱒淵自然遊歩道は約1.2km、20分のコースで、バードウォッチングと森林浴が楽しめます。この地域からさらに1kmほど東に行くとゲンジボタルの生息地に出ます。ホタルの観賞期間は区間内に車の乗り入れはできません。手前で降りて歩いていきましょう。

山里の豊かな緑は クヌギやナラなどの広葉樹

鱒淵川周辺の林は、炭をつくるのに適したクヌギやナラが多く、炭焼きが行われています。昔ながらの桜や桃の木、ハスの花のあるお寺もあります。タラノメやフキなどの山菜、シタケなどのキノコ類も多く見られます。

体験農園もある 源氏ボタル交流館

源氏ボタルが見られるポイントの近くに「及基と源氏ボタル交流館」があります。源氏ボタルの観賞や、華足寺など町の史跡見学に訪れる人々との交流のために建てられた施設。土にふれて種まきや収穫を体験できる体験農園もあります。



湖沼・湿地 に行こう

湖沼は渡り鳥たちの絶好の観察スポット。冬になると、遠い北の国から冬越えのために日本へやってきた、ハクチョウやガンなどの水面にたたずむ様子が見られます。注意深く観察して、鳴き声や飛び方など生態の特徴をつかみましょう。



服装

虫対策を忘れずに 肌の露出が少ない服を着よう

湿地帯ではブヨやハチが飛んでいることがあります。場所によってはユスリカという人を刺さない虫もありますが、できるだけ長そでと長ズボンを着用し、刺されないように気をつけましょう。

・つばのある帽子・長そでのシャツ・長ズボン・運動ぐつなど

持ち物

双眼鏡を使って 水生植物を観察してみよう

湖沼でよく見られる植物はヒシ。スイレンなどと同じで、葉が水面に浮いている植物です。そのほか水生植物には、ヨシやハスなど茎や葉を水上に伸ばしているものや、ウキクサなど全体が水面に浮いているもの、水上に姿を見せないものなどがあります。双眼鏡を使えば、水深によって水生植物の生える場所が違うことが一目瞭然。

・双眼鏡・ポケット図鑑・救急用品・筆記用具・ノートなど

気を つけよう

自然の中では、 動物たちの領域を侵さない

山の中の湖沼では、シカやクマなど水を飲みにくる動物を見かけることがあります。自然の中では人間が侵入者であることを忘れず、むやみに近寄ったり、ゴミを捨てたりしないようにしましょう。また、水辺は足もとが不安定なので注意が必要です。

自然を 知ろう

自然と自分の記録になる フィールドノートをつけよう

フィールドノートとはいわば観察日記。どんな動物を見つけたのか、どんな場所だったか、天候はどうだったか…などをスケッチして特徴を書き込んでいきます。疑問点などもメモしておいて後で調べて書き足していくと、観察が楽しくなっていきます。



なるほど コラム

陸ガモと潜水ガモの違い

カモの仲間には、水面でえさをとる水面採餌ガモ(陸ガモ)と、潜ってえさをとる潜水採餌ガモ(潜水ガモ)がいます。陸ガモは、水面の水草などを食べ、えさがなくなると頭を水の中に入れて逆さになり、水中の植物を食べます。このとき足をバタバタさせますが、これは体が起き上がらないようにするためです。潜水ガモは、一瞬伸び上がるようにして水に潜り、魚や水中の植物を食べてから別の場所に姿を現します。また飛び立ち方も、前者が水面から垂直に近い形で飛ぶのに対し、後者は水面を滑るように低い角度で飛んでいます。

遊んで みよう

葉っぱを使って 昔遊びをしてみよう

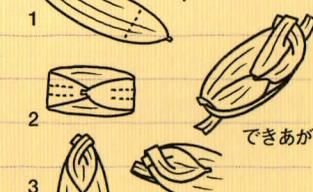
◎クズの葉で音遊び

軽くにぎった左手の輪の下からクズの葉を押し込みます。右手を平らにして、ポンと下からたたくと、葉っぱが音をたてて飛び出します。



◎笹舟で水遊び

- 1 笹の葉の表を上にして、両端を内側に折る。
- 2 折った部分に切り目を2本入れる。
- 3 3本に分かれたうちの端の片方を、もう片方の切り端に差し込む。



できあがり

てしるぎ 手代木沼の主役は ハスとハクチョウ

手代木沼周辺ゾーン

夏はハス、冬はハクチョウが観察できる手代木沼。一方、斗蔵山にはウラジロガシの大規模な自然林が保存されています。



夏の手代木沼

特別地区として保存 斗蔵山のウラジロガシ林

標高238mの斗蔵山は、ウラジロガシの大規模な自然林（モミ・ウラジロガシ林）があることで有名。学術的にもきわめて貴重なものとされ、県自然環境保全地域の特別地区として指定されています。

●問い合わせ先/0224-63-2111(角田市教育委員会・商工観光課)

夏の手代木沼はハスの花園 斗蔵山は希少植物の宝庫

手代木沼は江戸時代に、農業用水を貯蔵するために築かれた人工沼。大小2つの沼に分かれていて、夏は水面がハスの花と水草におおわれます。斗蔵山周辺には、イチリンソウやヤマアジサイなど、貴重な植物が生育しています。

珍鳥が飛来する冬の手代木沼 貴重動物が生息する斗蔵山

冬はカモ、ハクチョウ類の渡来地として知られる手代木沼。まれにアメリカコハクチョウなどの珍鳥も訪れます。斗蔵山周辺には、ニホンイノシシやニホンリスなどが生息。近年はニホンカモシカも見られます。

野鳥観察と軽登山を楽しめる 斗蔵野鳥の森

斗蔵山一帯は野鳥の森として整備されており、遊歩道を進んでいくと、約500mほどで斗蔵寺や斗蔵神社がある山頂に到着。斗蔵山には、年々数が減少してきているオオルリやキビタキなどの夏鳥が生息。冬鳥ではツグミやウンなどが観察できます。

縄文住居が残る梁瀬浦遺跡 6~7世紀造営の横倉古墳群

梁瀬浦遺跡（国史跡）は縄文時代中・後期の住居跡。魚網のおもりなどが出土していることから、この地域がかつては湖沼か湿地に近い場所であったことがうかがえます。また横倉古墳群には、6~7世紀の造営と思われる吉ノ内前方後円墳を中心に、60数基の古墳群があります。



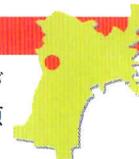
角田駅から手代木沼までは約5.3km、1時間半ほどかかりますが、途中、横倉古墳群を見て回れます。さらに足を延ばせば梁瀬浦遺跡や高蔵寺などの見どころがあります。斗蔵山の野鳥の森入り口までは、角田駅から南西に約7km。山頂からは蔵王の遠望を楽しめます。



清らかな自然に ふれる山裾の湿原

荒沢湿原ゾーン

葉菜山周辺には、豊かな緑や湖沼、清流があり、荒沢地区のミズバショウが咲く湿原では、みずみずしい自然と出会えます。



荒沢湿原のミズバショウ

美しいミズバショウが 群生する荒沢湿原

葉菜山周辺は、森林景観とともに、湖沼、湿原、溪谷、滝などの溪谷景観にすぐれたエリア。葉菜山の南に位置する荒沢湿原地帯は、県内でも有数のミズバショウの群生地になっています。

●問い合わせ先/0229-67-2111 (小野田町商工観光課)

葉菜での自然観察を より楽しくする荒沢自然館

県内有数のミズバショウ群生地である荒沢地区に、森林財産の保護、森林教育や自然探索の研修の場として建てられたのが荒沢自然館です。新緑、トンボ、紅葉などの観察会が開かれ、自然に親むことができます。月曜日休館。

●問い合わせ先/0229-67-5020 (荒沢自然館)

木々の間をぬう清流が 美しく流れ落ちる荒沢の滝

葉菜山の南麓を流れる大滝川の途中にある荒沢の滝には、吊り橋が整備され、七段になって落ちる滝の美しい景観を楽しめます。また、近くには大滝農村公園の広大なテントサイトスペースがあり、キャンプを楽しむことができます。

県内随一の トンボ類生息地

700haを越える荒沢湿原地区はトンボ類の県内随一の生息地になっています。オゼイトトンボやエゾイトトンボや、日本に産するトンボで最も小さいハッチョウトンボなど、50種以上のトンボが確認されています。

地すべり運動でできた 荒沢湿原

荒沢湿原は大きく田谷地地区と上荒沢地区に分けられます。2つの地区は地すべり運動によって生じた複雑で変化に富んだ地形、地質、水系が幾重にも展開。スゲ沼・ビン沼・北かば谷地・南かば谷地など池沼や湿地が多く形成されています。



荒沢湿原地区には沼の道(1.2km)、コナラの道(2.5km)、ミズバショウの道(2.8km)、田谷地の道(3.5km)などの散策路が整備され、目的に合わせて自然観察を楽しむことができます。



火山の活動から 生まれた神秘の沼

濁沼・荒雄湖ゾーン

世界的にも珍しい特徴をもつ静かな沼と、美しい眺めをもつダム湖。ここには対照的な水環境があります。



濁沼

湖底からガスが噴き出す濁沼は 鳴子火山のカルデラ湖

鳴子温泉の頭上に連なっているのは、あまり知られていませんが鳴子火山です。その山頂のカルデラ湖が直径約400m、水深約16mの濁沼。山は硫黄が多く、濁沼の湖水はまれに見る強酸性です。

●問い合わせ先/0229-82-2111 (鳴子町商工観光課)

火山の影響を直接受けている 濁沼には珍しい植物も

このような強酸性でも湖底には珪藻が生えています。山の斜面の暖かい水蒸気を噴出するあたりには、ミズスギ、リョウブなどの噴気孔荒原植物群落があり、アスヒカズラ、マンネンズギなどのシダ植物が地表に這っています。

強い酸の沼に たくましく生きるユスリカ

栗駒国定公園内の濁沼は強酸性の沼。湖水の中でセズユスリカの幼虫が生息し、湖岸では成虫が群れて飛んでいるのが見られます。このほか原生動物の一種などが確認されているものの、魚などはまったくすんでいません。

ブナの森が育てた清流を たたえる荒雄湖

鳴子温泉をはさんで、濁沼とは反対側にある荒雄湖。上流のブナなどの広葉樹林帯から流れてきた荒雄川(江合川)をせき止めた鳴子ダムのダム湖です。周囲の木々が湖面に映るながめはすばらしく、新緑と紅葉の季節が見ごろ。

鳴子火山を構成する 山々のひとつ胡桃ヶ岳

濁沼と一体となって美しい火山景観をつくり出しているのが胡桃ヶ岳。山頂は樹木がなくスキで覆われています。明治時代に建てられた宮城県の石標も見られます。胡桃ヶ岳南麓の硫気孔付近は危険なので、近づかないように気をつけましょう。



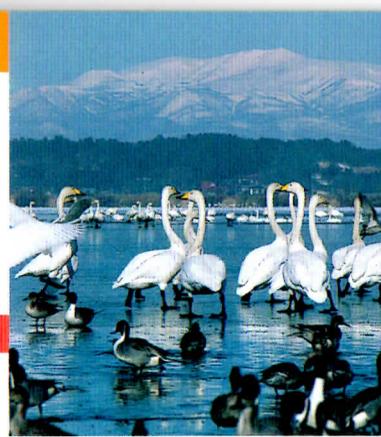
鳴子温泉街の南側、約2kmの所が濁沼。湖の北側に駐車場とレストハウスがあり、湖周囲の歩道で濁沼散策ができます。胡桃ヶ岳へは、レストハウスから鳴子下る車道の峠から約1時間。美しい鳴子峡も近くにあります。



日本有数の野鳥の 楽園伊豆沼・内沼

伊豆沼・内沼周辺ゾーン

渡り鳥の越冬地として国際的に知られ、夏は沼一面に野生のハスが開花。鳥、魚、昆虫、植物など多彩な生物を観察できます。



伊豆沼の白鳥

貴重な原地形を残す 低地湖沼、伊豆沼・内沼

戦前・戦後の干拓の中でわずかに自然地形が残された低地湖沼。水深が浅く、水草が豊富で、厳冬でも結氷しないため水鳥の楽園になっています。

●問い合わせ先/0228-22-1111 (築館町産業振興課)
0228-32-2121 (若柳町企画商工課)
0220-22-2111 (迫町商工都市計画課)

野生のハスが沼一面に 咲き誇る夏

伊豆沼・内沼に生育する水生・湿性植物はきわめて豊富で、貴重な自然植生が残されています。岸边にはヨシやマコモなどの挺水植物、沼にはハスやガガバタ、アサザ、クロモなどの沈水・浮葉植物の群落。とくに夏はハスが沼一面に咲き、はすまつりで賑わいます。

約3万羽の渡り鳥が越冬 マガンの飛来数は国内最大

伊豆沼・内沼周辺では日本に生息する鳥類の約4割、200種類以上が観察できます。冬は約3万羽ものガン・ハクチョウ・カモ類が飛来。とくにマガンの飛来数は国内最大といわれ、夕暮れには壮大な雁行が見られます。オオムラサキなどの昆虫類、タナゴなどの魚類も多彩です。

鳥、魚、昆虫をそれぞれ展示 各サンクチュアリセンター

伊豆沼・内沼の周囲には3つのサンクチュアリセンターがあります。つきだて館は昆虫、若柳町の伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターは鳥、迫町センターは魚がテーマです。

●問い合わせ先/0228-22-7151 (サンクチュアリセンターつきだて館)
0228-33-2216 (伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター)
0220-28-3111 (迫町サンクチュアリセンター)

ラムサール条約に登録された 地球の貴重な財産

伊豆沼・内沼は、イランのラムサールで採択された、水鳥類の保護と環境保全を目的とするラムサール条約の登録湿地に指定され、良好な環境が大切に守られています。そのほか、県自然環境保全地域、国設鳥獣保護区特別保護地区などに指定されています。



伊豆沼・内沼は合わせて周囲約16.8km。歩けば約5時間と広範囲です。伊豆沼野鳥観察館の屋上からは沼が一望でき、間近で野鳥を観察できる好ポイント。伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターの2階はガラス張りの展望室で、望遠鏡で沼を観察できます。



体験施設が充実 花山湖周辺

湖沼・湿地 5

花山湖周辺ゾーン

栗駒国立公園の玄関口に当たり、美しい自然が残る花山湖周辺。登山や自然観察などさまざまな自然体験が楽しめます。



花山湖

美しい牛淵溪谷は 季節の美しさを味わえる公園

花山ダムの湖水が流れ込む溪谷で、全長約300mにわたって奇岩絶壁が続く景勝地。桜、新緑、紅葉、雪景色と四季折々の景観も見事。溪流沿いにはアウトドア施設が整った牛淵公園があり、キャンプや芋煮会などが楽しめます。

●問い合わせ先/0228-52-2111 (一迫町企画振興課)

ノジコやオオルリなどの 美しい姿やさえずりも楽しみ

花山湖畔には豊かな森が広がり、多くの野生鳥獣が生息しています。野鳥では鈴を振るような美声でさえずるノジコや、鮮やかなコバルトブルーのオオルリなどがよく見られます。また花山湖ではヘラブナやコイ釣りが楽しめます。

眺めのいい展望台は かつての古城「測牛館」

花山湖畔の小高い森にある測牛館。前九年の役で源頼義に滅ぼされた、阿部貞任の居城跡と伝えられます。今は花山青少年旅行村の遊歩道の展望台になっており、途中の赤い吊橋からは花山湖の美しい景観が楽しめます。



周囲約11kmの花山湖畔には多彩な施設が点在。花山青少年旅行村から測牛館までは遊歩道で約1.5km、40分ほど。測牛館からは花山湖のすばらしい景観が楽しめます。牛淵溪谷は花山ダムより約500m下流、御嶽山は湖畔から約7km北西です。

アズマシャクナゲの 自生北限地御嶽山

花山湖の北にある御嶽山はシャクナゲ山とも呼ばれ、アズマシャクナゲの自生北限地。美しい紅色の花は5月上旬から中旬が見ごろ。国天然記念物。国立花山少年自然の家から約2km。

●問い合わせ先/0228-56-2111 (花山村企画課)

自然観察や体験が楽しめる 多彩な施設が充実

花山湖畔に広がる花山青少年旅行村は、キャンプ、釣り、テニスなどが楽しめる多彩なアウトドアスポット。湖畔上流のミズバショウ公園では、3月下旬から4月中旬、数万本のミズバショウが咲き誇ります。

●問い合わせ先/0228-56-2101 (花山青少年旅行村)

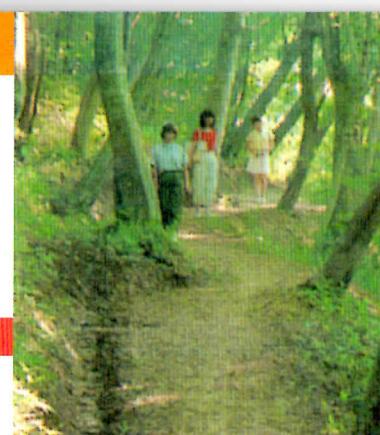


のどかな田園地帯 に静かな沼

湖沼・湿地 6

平筒沼周辺ゾーン

米山町はその名の通り米どころで、町の面積の約7割が水田。平筒沼は、そんなのどかな田園地帯の中にある静かな沼です。



憩いの森

ゆったりと自然を楽しむ 平筒沼ふれあい公園

平筒沼には、沼の北側の「ふれあい広場」にある「平筒沼 you you 館」南側の「中央広場」を結んで、全長188mの浮き橋がかけられています。橋の中ほどにはあずま屋があり、沼ではカヌーやボート遊びもできます。

●問い合わせ先/0220-55-2111 (米山町商工観光係)

豊かな自然だからこそ 野鳥たちがいる森

水と緑が豊かな平筒沼ふれあい公園の周辺には野鳥が多く、「みやぎの野鳥の森」として指定されています。歩いてるとヤマゲラ、コゲラ、カッコウなどのさえずりが聞こえてくるかもしれません。野鳥図鑑を片手に、観察してみましょう。

周囲にはアカシデ、コナラ などが生い茂る森

平筒沼北側の「憩いの森」には、カバノキ科の落葉高木のアカシデが見られ、「みやぎの特定植物群落」のひとつとして、「平筒沼のアカシデ林」が指定されています。全長3kmほどの散策路があり、森林浴には格好の場所です。

気軽に散策できる 沼のほとりの遊歩道

遊歩道を進むと、場所の特徴を示すさまざまな名前のついた森の中に入っていきます。東北大学理学部の「木星電波観測所」がある科学の森、さらに紅葉の森、モミの森、野鳥の森、アカマツの森などが現れます。足元の草花にも注意して目を向けてみましょう。

大きなヘラブナも釣れる 魚影の濃い環境

平筒沼では、四季を通じてヘラブナ釣りを楽しむことができます。4月には大会も開かれ、多くの釣り人が訪れます。時折、40cmを超すヘラブナが顔を見せることもあります。でも釣ったら、また逃がしてあげましょう。



平筒沼の周囲には、全長約2.8kmの遊歩道が設けられています。この遊歩道沿いには500本の桜が植えられていて、春にはみごとな眺めになります。北側の憩いの森にはナラやブナの木立ちの中を歩く散策路があり、所要時間は1時間半です。



川 に行こう

虫たちのすみかを訪ねたり、魚を追いかけてり…。川は、私たちにとって一番身近な自然です。上流・中流・下流と場所を変えて観察してみると、生息する生物も景色も違うことに気づきます。まずは近くの川に行ってみましょう。新しい魅力を発見するかもしれませんよ。



服装

ぬれても、汚れても 平気なくつを履いていこう

川底は水ごけなどで滑りやすくなっています。転んでケガをしないように滑りにくい長ぐつを履くと安心です。また、河原には空き缶やガラス片が落ちていることが多いので、はだしではなく必ず運動ぐつなどを履いて、観察するようにしましょう。

・つばのある帽子・長そでのシャツ・長ズボン・運動ぐつなど

持ち物

水生昆虫が羽化する 春～夏が観察にはもってこい

川の生物を観察するには、網目が2mmより小さいザルまたは底をすくえるような網と、生物を移して観察するための透明な容器が必需品。川の中は小さい生物が多いので虫メガネやピンセットもあると便利です。観察のときにたまったゴミは持ちかえりましょう。

・ザル・透明な容器・ピンセット・虫メガネ・タオル・軍手・ポケット図鑑・救急用品・筆記用具・ノートなど

気を つけよう

川を楽しい遊び場にするに 事前の心構えが大切

川の流れは見た目より早く、急に深くなったりします。川に入るときは、木切れを流すなど、流れの早さを確かめてから入るようにしましょう。また、上流の方で雨が降ったりダムで放流があると、急に水かさが増えることがあるので、中州に行くときは十分な注意が必要です。

自然を 知ろう

川の中の生物は 水質を知るバロメーター

どんな昆虫や貝類がすんでいるかを観察することで、その川がきれいなのか、汚れているのかを知ることができます。観察の仕方は、川底が砂や泥の場合はザルですくって、ザルの底を水につけたまま揺すって砂を落とします。底が石の場合はザルを石の下流に当てて石をを起こし、石についている生物を手でそっとザルに移します。

- ・きれいな水…サワガニ、カワゲラなど
- ・少し汚れている水…イシマキガイ、ヒラタドROMシなど
- ・汚れている水…タニシ、シマイシビルなど
- ・すごく汚れている水…オオユスリカ、イトミミズなど



なるほど
コラム

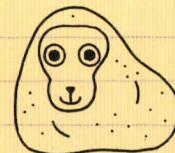
川の自浄作用、水中の食物連鎖

下水や排水に含まれる有機質のゴミ(動物の死がいや、枯れて腐った植物など)は、川を汚す大きな要因になっています。この汚れを取り除いてくれるのが水中の生物たちです。細菌類や藻類、ゾウリムシ、ミジンコなどが活躍します。藻類は光合成を行い、水中に放出された酸素はそのほかの水中生物の呼吸源となります。有機質のゴミを取り入れて増殖した細菌類は、ゾウリムシなどの原生動物に食べられ、さらに原生動物はミジンコなどに食べられます。こうした川の流れの中で行われる食物連鎖が、水をきれいに行っているのです。

遊んで みよう

川原の小石に色をつけて 動物や魚に仕上げよう

川の上流の石はゴツゴツなのに、下流の石は丸い石。小石と小石を接着剤でくっつけて魚を作ったり、大きめの石に動物の絵を描いたりするのも楽しいものです。色塗りには耐水性のあるアクリル系の絵の具を使うといいでしょう。



都会では貴重な 杜の都の清流

広瀬川中流ゾーン

広瀬川は中流部になって川幅を広げ、仙台の都心部をゆったりと蛇行して流れます。そこには豊かな自然が息づいています。



広瀬川のカジカガエル

様々な化石が発見される 竜ノ口渓谷

広瀬川の小支流がつくった深さ約80mの竜ノ口渓谷では、クジラ、ゾウ、ウマなどの化石が発見されています。特に多い貝の化石は、約400万年前のものといわれています。また、霊屋橋の下流側約200mの川岸には、400~300万年前のセコイアの木の化石が見られます。

市街地では珍しい 野鳥や鮎の観察地

広瀬川の全域では国鳥のキジが、牛越橋から広瀬橋の間では、市街地では珍しいオシドリやヤマセミなど、四季を通じて約120種類の野鳥が観察されています。中流域には鮎が生息し、夏の間は川岸や橋の上からも泳ぐ姿を観察することができます。

清流のシンボル カジカガエルの生息地

体長は3~8cmで、足の指に吸盤を持つカジカガエルは、山地を流れる谷川など、河川の中流から上流域に多く生息する清流のシンボルです。水の美しい広瀬川では、下流の千代大橋の付近でもその姿を観察することができます。

豊かな生態系を育む 清流を守る活動

仙台のシンボルとして市民に親しまれてきた広瀬川。都市の中心部を流れているにも関わらず豊かな生態系を育むこの清流を将来にわたって守っていかうと、さまざまな市民団体が、清掃活動やシンポジウムの開催などを積極的に行っています。

広瀬川の淵に残る 様々な伝説

市内に入っても大きく蛇行している広瀬川には淵が多く見られます。なかでも一番深い淵が霊屋橋下の源兵衛淵。淵に住むオオナギとの約束を守らず殺された男の名がつけられ、かつて子ども達は、祟りを恐れてカップよけのお守りを付けて泳いでいました。



広瀬川にかかる激橋から霊屋橋までの中流域の周辺には、仙台市の天文台や博物館などの施設があり、散策の途中に立ち寄るには最適です。また、青葉山城址、伊達政宗の霊廟瑞鳳殿まで足を延ばすのもいいでしょう。

白石川で溪谷美と ハクチョウ観察

白石川小原溪谷ゾーン

上流には新緑と紅葉の名所小原溪谷。市街地からさらに下るとハクチョウも飛来する、貴重な自然が残された川です。



小原溪谷

新緑と紅葉の名所 小原溪谷

白石川は山形県境近くに源流を発生し、七ヶ宿ダムを通過しています。さらに下って小原温泉から新湯辺りは、美しい溪谷美を見せる小原溪谷となります。新緑や紅葉は特に美しく、溪谷沿いの遊歩道から景観を楽しめます。

●問い合わせ先/0224-25-2111 (白石市商工観光課)

四季折々の美しさを見せる 小原溪谷の自然林

深いV字形の小原溪谷は自然林におおわれ、アカシデを主として、ヤマモミジ・ハウチワカエデ・コシアブラなどが混生しています。春にはみずみずしい新緑、秋には美しく紅葉し、溪谷と調和してすばらしい景観をつくります。

白石市蔵本地内の 最初の大堰

初めて蔵本から水を引いたのは約400年前のことです。今の蛇淵ダム(堰堤)の下流の浅瀬に、土をつめた俵や玉石、材木、竹などで堰を築き、そこでせき止めた水が用水路に入るようにしていました。それが蔵本の大堰です。その後江戸時代末期、片平観平親子が登場します。

蔵王町・大河原町方面には ハクチョウ飛来地が点在

蔵王町宮や大河原町の白石川沿いには、毎年たくさんのおオハクチョウやコハクチョウなどが飛来。10月中旬から2月下旬まで優雅な姿を見せてくれます。白石川は、やがてさらに川幅が広がり阿武隈川と合流します。

江戸の歴史を伝える 用水専用隧道「切通し」

白石市蔵本地内の白石川河畔には、天保時代、片平観平親子が用水を城下町に導くために築いたといわれる、歴史的な用水専用隧道「切通し」が現存しています。「切通し」沿いは緑が多く、魚が遡上・回遊するなど豊かな自然環境が見られます。



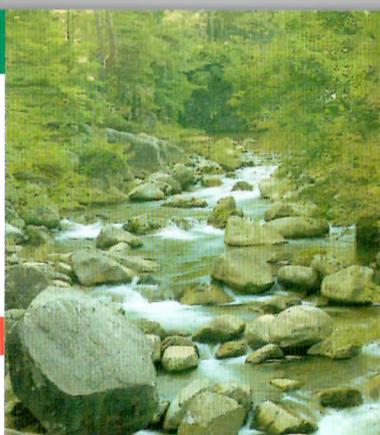
碧玉バス停から遊歩道までは約0.7km。すぐに白糸の滝が見え、約1km上ると親子滝、入道岩などあります。小原温泉バス停まで約2.2kmのコースです。大雨などの影響で通行止めになることもあり注意が必要ですが、国道沿いからも溪谷美を眺めることができます。



豊かな自然環境をもつ溪谷

内川溪谷ゾーン

すばらしい自然景観を見せて流れる内川溪谷。阿武隈溪谷県立自然公園内にあり、多くの動植物の貴重な生息地となっています。



内川

美しい景色を見せる 県立自然公園のエリア

内川溪谷は、福島県境に連なる山々を源流とし、支流の水を集めて勢いよく流れ、やがて阿武隈川に合流する溪谷。公園地域に入るところから、河床に花崗岩類の大きな転石が数多く見られます。豊かな自然環境が保たれ、清流と岩と緑が調和する美しい景観です。

大きい自然に手がとどく 不動尊公園

内川の溪流が流れ、桜、藤、紅葉が美しい不動尊公園は、澄んだ空気の中、家族で楽しく大自然とふれあえる人気のスポット。公園内にはキャンプ場やハイキングコースもあります。

●問い合わせ先/0224-72-2111 (丸森町商工観光課)

多くの動植物が生きている 自然豊かな内川溪谷

内川溪谷は、多くの動植物の貴重な生息地です。河辺にはケヤキやイヌシデが生え、カジカガエルやアズマヒキガエルが生息しています。溪流沿いの水たまりにはトウホクサンショウウオがすみ、転石の間や淵ではヤマメやウグイを見つけることができます。

上流の夫婦岩には 珍しい岩上植物群落

内川上流域の夫婦岩地区では、固い火山噴出物が柔らかい層の上に残ってできた岩稜・断崖となっていて、高さ約50mの崖が4.5kmも続いています。岩が露出し、養分も少ないこのような場所にもキリンソウ、マルバマンネングサなどの岩上植物群落が生育しています。

上流にはかつて山伏が 修業した清滝

不動尊公園から、内川の支流の清滝川に沿ってどんどん上流に向かっていくと、12mほどの高さで爽快なしぶきを上げる清滝まで行けます。ここは、かつては山伏の修業の地でした。岩壁にはクモノスシダ、ハコネシダなど県内では珍しいシダ植物が見られます。



不動尊公園から上流の清滝まで、ハイキングコースが設けられています。不動尊公園キャンプ場の奥から林道に入り、四季折々の溪谷美とさわやかな水の音を楽しみながら約2.5km40分の道のりです。途中、500mの標識があるところから沢に降りられます。



治水事業が生んだ 新しい江合川

江合川・新江合川ゾーン

江合川下流域を洪水から守るため、鳴瀬川との間に開かれた新江合川。2つの江合川流域では多彩な環境保護活動が展開中です。



メダカの楽校池

江合川下流域を 洪水から守る新江合川治水

新江合川は、下流の江合川流域を洪水から守るため、昭和8年から24年の歳月をかけて造られた人工河川です。古川市福沼地点で予測される大雨をもとに、江合川の計画高水流量（大水）を計算し、その約45%が鳴瀬川へ自動的に流れ出す仕組みになっています。

中洲に残るヤナギ類の群落 河川敷には草花を植栽

江合川の中洲や寄洲にはシロヤナギやネコヤナギなどのヤナギ類を主とする河辺植物群落が見られます。また古川市では、市民グループが江合川の環境美化活動に取り組んでおり、河川敷にアヤメやレンゲソウなどの草花を植栽しています。

アユやウグイなどの魚が棲み ハクチョウたちが越冬

江合川、新江合川には回遊魚のサケやアユ、ウグイ、カジカ、ヨシノボリなど多くの種類の魚が生息しています。また江合川の江合橋地点はハクチョウの飛来地として知られ、オオハクチョウなど数百羽が越冬。周辺の江合川河川敷公園では、ハクチョウの観察等もできます。

江合川、新江合川に親しめる 2つの親水公園

江合川河川敷公園には花壇広場やハクチョウの観察等もできる白鳥の広場、散策路、中洲を利用したバードサンクチュアリなどがあります。新江合川緑地公園にも緑地広場などが整備されています。

●問い合わせ先/0229-23-2111 (古川市建設部管理課)

絶滅の危機にある メダカを増やす楽校池

江合川の愛護活動を行っている古川市の市民グループは、絶滅の危機にあるメダカを増やすため、建設省の協力で江合川河川敷に「メダカの楽校池」を造り飼育しています。また新江合川と鳴瀬川の合流付近には、川を通して自然学習を体験できる「下伊場野水辺の楽校」があります。



JR古川駅から江合川河川公園までは約2.5km。公園内には花壇広場や散策路、メダカの楽校池、白鳥の広場などがあり、ゆっくりと散策が楽しめます。JR古川駅から新江合川緑地公園までは約4.5km。公園内には緑地広場や運動公園などがあります。



旧迫川流域に残る野鳥の楽園

旧迫川・蕪栗沼ゾーン

かつて氾濫の多かった旧迫川流域に残された、貴重な原地形をとどめる蕪栗沼。近年、野鳥の生息地として注目されています。



蕪栗沼

洪水の多かった旧迫川 洪水を調節していた蕪栗沼

旧迫川流域のこの辺りはかつて迫低地と言われ、氾濫が多く、蕪栗沼は洪水時の遊水池としての役割を果たしていました。そのため低湿性植物、水生動物、野鳥などが生息し、豊かな自然の宝庫として残されています。

●問い合わせ先/0229-39-1111 (田尻町商工観光室)

伊豆沼・内沼にも劣らない ガンやハクチョウ類の飛来数

蕪栗沼とその周辺には、伊豆沼・内沼に匹敵するほどのガンやハクチョウ類が越冬。間近に観察できます。また冬期間、コチョウゲンボウのねぐらが形成されることも有名です。隣接する水田では餌をとるマガンやヒシクイなどが観察できます。

蕪栗沼を中心に広がる 地域活性、環境保全

蕪栗沼は、自然遊水池としての機能を果たしながら、農業との共生、豊かな湿地環境の保全などさまざまな機能を持っています。環境学習なども視野に入れた、地域、各種団体、学、官などの取組みが注目されています。



沼を訪れるときは自家用車が便利です。沼に沿って一周することはできないので、あまり移動せず観察場所を絞った方がベター。観察は9月から3月が適切。10月には壮大な雁行が楽しめます。

中心に沼、周囲にはヨシ原の 湿地帯が広がる蕪栗沼

蕪栗沼は中心部が小さな沼、その周りほとんどがヨシやマコモ、ヤナギなどの湿性植物が繁茂する湿地帯です。さらに外側には灌木類が繁り、湿地が陸地化していく貴重な風景を見ることができます。

360度のパノラマが楽しめる 加護坊山自然公園

蕪栗沼の南側にある標高224mの加護坊山は、県の緑地環境保全地域に指定されており、晴れた日には栗駒や蔵王、太平洋に浮かぶ金華山まで見渡せます。また春は千本桜、夏はキャンプ、秋は芋煮会など四季を通じて楽しむことができます。



河口部独自の環境を学ぶ

追波川ゾーン

東北最大の川・北上川が広大な川幅となってゆったり流れる、この辺り。河口部ならではの自然が豊かに残されています。



追波川のヨシ原

東北最大の川 約250kmの旅の終着点

東北最大の川・北上川は、岩手・宮城の両県を貫いて南流し、河北町でほぼ直角に東に向かいます。新北上川と呼ばれるこの流路のうち、流れの方向が変わる付近から下流部は追波川とも呼ばれ、北上町、河北町境では広大な河口をもつ見事な下流の景観を見せています。

野鳥のモデル観察地 亀ヶ森公園

追波川がちょうど直角に向きを変えるあたりにある亀ヶ森公園には、ミサゴやハククマ、インビヨドリ、ハヤブサなど、さまざまな野鳥が飛来し、モデル野鳥観察地になっています。6.1haの公園内には、1.1kmの観察路が設けられています。

日本有数の可動堰では 魚の遡上も見ることができる

飯野川橋より上流1,500mにかかる北上大堰は、昭和49年に完成した全長335.4mの日本有数の可動堰。資料展示室には建設に係わる資料や模型が展示され、希望者は設置された魚道を鮭やサクラマスが上る姿を観察することもできます。

●問い合わせ先/0225-95-0194 (東北地方建設局北上川下流工事事務所)



長さ約1.5km、面積約13haの追波川河川運動公園は、四季折々に美しい草花が咲きそろう、家族そろっての散歩には最適なコースです。公園内にある周囲約3.2kmの遊歩道では、サイクリングも楽しめます。自転車は貸出してくれるので心ゆくまで散策ができます。

追波川の冬の風物詩 中洲のヨシ刈り

飯野川橋下流から新北上大橋にかけては、ヨシ群落を中心とした河辺植物群落が発達しています。毎年冬には、川に船を浮かべヨシを刈り取っている光景が見られます。北上川河口のヨシは強いのが特徴で、全国の文化財の草ぶき屋根の修復などに使われています。

広々とした空間を楽しむ 追波川河川敷公園

追波川河川運動公園「ファミリーランド」には、野球場やテニスコートの他に、白鳥などが観察できる野鳥観察広場や、ウォーキングやジョギング、サイクリングもできる遊歩道があります。

●問い合わせ先/0225-62-2111 (河北町企画課)



海 に行こう

地球の約7割は海です。その海にはたくさんの生物が暮らしています。干潟、砂地、磯…など場所を変えて、いろいろな種類の魚や貝、海藻などを観察してみましょう。



服装

海辺の自然観察は、強い日射と海風対策から

海辺の日射は想像以上に強いものです。日陰もほとんどないので、つばの広い帽子をかぶることをおすすめします。また風も強いので、飛ばされないように帽子にはあごひもをつけておくと安心です。

・つばの広い帽子・胸ポケットのあるシャツ・雨着・運動ぐつ・休憩用のビーチサンダルなど

持ち物

干満の時間を知るため、時計は必ず持って行こう

干潮の時に沖で観察していたら、いつの間にか満潮になり岸に戻れなくなった、などということがないように時計は必需品。ビニール袋に入れてベルト通しにぶらさげれば、水が入る心配はありません。文字盤が見えるように入れましょう。

・ビニール袋に入れた時計・軍手・タオル・ポケット図鑑・救急用品・ボールペン・メモ帳・箱メガネなど

気を つけよう

潮どきをつかんで、早く行き、早く帰る

海辺の生物観察に適した時間は、新聞などに出ている干潮の時刻をはさみ、大潮のときで前3時間、後1時間。満ち潮を逃げ切れず、沖に取り残されないように、潮がひくのに従って沖へ向かい、干潮時刻がきたら岸に引き返しはじめると安全です。潮が岸へ寄せはじめるころ、岸が上がっているくらいがベスト。また、ゴミは必ず持ち帰りましょう。

自然を 知ろう

タイドプールは自然の水族館

潮がひいた後、磯のくぼみに残された大小さまざまな水たまりを、タイドプールといいます。そこでは潮の流れに乗り遅れた小さなエビやカニ、魚などが観察できます。肉眼でじっくり観察した後は、箱メガネでのぞいてみましょう。岩にくっついている生物や岩のすき間に隠れている生物まで鮮明に見ることができます。

空き缶の上下をくりぬいて、片側にビニールをかけ輪ゴムでとめれば、できあがり。作った箱メガネはやゴミはきちんと持って帰りましょう。



なるほど
コラム

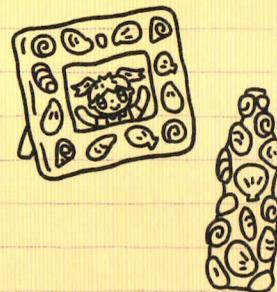
なぜ、海水はしょっぱいの？

海の水がしょっぱいのは、もともと陸地の岩の中にあつた塩がとけているからです。大昔、火の玉のように熱かつた地球が冷えてくると、空気中の水蒸気も冷えて雨が降るようになりました。この雨が岩石を削りながら流れて海を作ったといわれます。陸に降つた雨が、川となって海に流れるときに、岩などを削り取り、中に含まれている塩と一緒に運んできたのです。

遊んで みよう

海辺の漂着物で作る花びんやフォトフレーム

海辺を歩いていると、不思議な形の貝がらや木の実、波に洗われて角が取れたガラスのかけらなどが見つかります。そんな漂着物を拾い集めることを、海外ではビーチ・コーミングといって、立派な趣味の一つになっています。気に入つた貝がらやガラス片を、ピンなどにあしらえば観察のすてきな思い出になるはず。海岸に流れ着いたピンを使うと、表面がザラザラしているので接着しやすいですよ。



野鳥観察に最適な 水鳥の渡来地

蒲生・井土浦ゾーン

蒲生干潟は砂浜や潟湖に生活する鳥類が飛来することで注目され、県の自然環境保全地域、鳥獣保護区に指定されています。



蒲生干潟

重要な水上交通路だった 貞山運河

仙台湾に注ぐ北上川と阿武隈川との間には約47kmにも及ぶ運河があります。そのうちの阿武隈川から松島湾までの約33kmを貞山運河といいます。米や木材などの荷物を乗せた船で、藩政時代を通して利用されました。

様々な植物が観察できる 干潟の環境

蒲生干潟の海水と淡水が混ざり合う辺りや、干潮時に干上がる場所にはハマツナ・シオクグ群落、ヨシ・ハチジョウウナ群落などの塩生植物群落が見られます。また、砂浜には、ハマヒルガオやハマニガナなどの砂浜植物も見られます。

豊かな植生を残す 井土浦周辺

名取川河口に広がる井土浦は、自然の状態が極めてよく保たれ、クロマツ、アカマツ等海岸林の中には、樹齢200年を超えるものもあります。付近にはハマニンニクなどの砂浜植物群落のほかに、シオクグ・ハマツナ群落、ヨシ・アイアシなどの塩性植物群落が観察できます。



七北田川～名取川間の貞山運河沿いには、約9kmのサイクリングロードがあります。東側に貞山運河、西側には、幅数100mにわたって松の防潮林が続きます。

蒲生干潟は日本有数の シギ・チドリ類渡来地

蒲生干潟は日本有数のシギ・チドリ類の渡来地で、春の渡来は3月下旬頃から始まり5月がピーク。秋は7月ごろから10月下旬まで続きます。4月下旬にはコアジサシも観察できます。冬はハマシギ、シロチドリや各種のカモ類、天然記念物のコクガンも見られます。

意外と新しい 蒲生干潟の形成

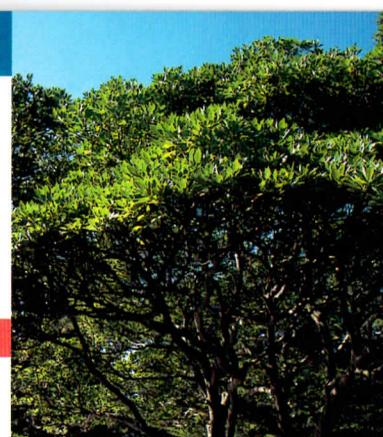
七北田川河口のバイパス工事により、昭和36年までに現在の位置に河口が取り付けられたことで、かつての七北田川の流路の一部が海岸線に平行に、南北に細長い潟として残されました。それが蒲生干潟です。その後、仙台港の建設により現在の姿になりました。



緑の島と 野鳥の楽園

志津川湾周辺ゾーン

南三陸金華山国定公園のほぼ中央に位置する志津川湾には、多様な植生が見られる島々や美しいリアス式海岸があります。



椿島のタブノキ

暖地性植物が群生する 植物学の宝庫「椿島」

志津川港から約4km。約1,500本のタブノキが群生している椿島は、国の天然記念物・暖地性植物が群生し「植物学上の宝庫」と呼ばれています。なかには直径約1.8m、樹高約25mの巨木も見られます。

自然を学ぶ海洋青年の家と 志津川町自然環境活用センター

「海洋青年の家」では、志津川湾を眼下に望む絶好の環境の中で水泳やヨットなどを、「志津川町自然環境活用センター」では、水産業の歴史や漁具を展示する展示資料館があり、志津川の自然を学ぶことができます。

●問い合わせ先/0226-46-9109 (志津川町自然環境活用センター)

自然遊歩道がある野鳥の森は バードウォッチングに最適

キビタキ、オオルリ、ウグイスなどがすむ野鳥の森は、自然を活かした森の中に遊歩道が整備され、ハイキングや森林浴にも格好の場所です。コース途中には約50種類もの野鳥と鳴き声の説明が書かれた大きな看板が立っているのでチェックしておきましょう。

タブノキにおおわれた荒島は 歩いて渡る洋上公園

志津川湾北側に浮かぶ荒島は、暖地性のタブノキにおおわれた小さな島。旭ヶ浦地区に造られた人工海水浴場から防波堤で結ばれ、歩いて渡る洋上公園になっています。

●問い合わせ先/0226-46-2600 (志津川町商工観光課)

県下有数の大杉 荒沢神社の太郎坊の杉

町から約3kmほどのところにある荒沢神社(志津川湾北側)境内にそびえ立つ太郎坊の杉は、直径11.7m、樹高約42mの巨杉です。枝は東西に約25m、南北に約21mも張り出し、樹齢は800年を超えるとみられる県下でも有数の杉で、県の天然記念物に指定されています。



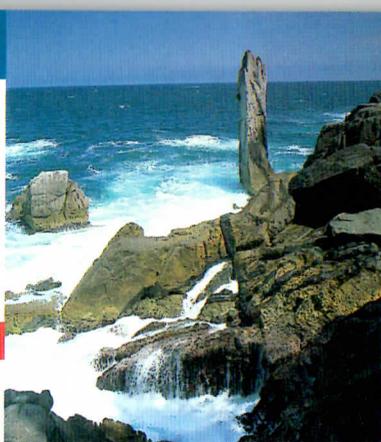
約7haの広大な面積をもつ野鳥の森公園は、漁業無線中継所を通る津の宮コースと海洋青年の家から入る浜伝谷コースの二つのコースで結ばれています。全行程は約4.5km、1時間20分のコースです。



自然の造形が 美しい唐桑半島

唐桑半島・大島ゾーン

絶壁と小さな入り江が連続する、リアス式海岸の一部を形成している唐桑半島は、美しい自然と海の資源が豊富なエリアです。



折石

岩のあたる波のしぶきが 美しい巨釜・半造

巨釜・半造は波によって侵食された大理石の奇岩が連続している場所です。太平洋北部から潮流に乗って南下したトドが、体を休ませることもあるトド岩や、岩の根が洞窟になっているトンネル岩、高さ16mの折石、八幡岩などを観察できます。

●問い合わせ先/0226-32-3130 (唐桑町観光振興協会)

歩くと音が鳴る 十八鳴浜は自然の芸術

大島の北東部、大初平にある長さ200m、幅30mほどの十八鳴浜は、踏むと「キュッ、キュッ」と音が鳴ります。「くぐなりはま」の名前の由来となったこの音は、浜を形成している黄褐色の石英粒が、押されて擦れ合う音です。

●問い合わせ先/0226-22-6600 (気仙沼市商工観光課)

珍しい津波体験ができる 唐桑半島ビジターセンター

半造レストハウスから約5.5km南、唐桑半島の南端にある唐桑半島ビジターセンターには、唐桑の自然と人の関係を紹介する展示館と、映像、音響、振動、送風などを組み合わせ津波に襲われる様子が疑似体験できる津波体験館があります。

●問い合わせ先/0226-32-3029 (唐桑半島ビジターセンター)

海藻、魚介の自然な姿を 観察できる海中公園

唐桑半島西側の小鯖からは気仙沼へ行く外洋めぐり船が就航。大島の外浜で降り、長崎漁港へ行くと、海中公園の景色を楽しめるグラスボートが出ています。ボートの底は透明なので海中の様子を観察できます。

●問い合わせ先/0226-32-3185 (唐桑汽船)
0226-28-2019 (グラスボート)

自然の展望台へは 景観を楽しめるリフトが便利

標高235mの亀山は、大島の北側にある自然の展望台です。浜の浦港から徒歩3分の場所から乗れる亀山リフトを使って、山頂に登ることができます。延長902m、12分間のリフトからは、美しい外洋と内湾が一望できます。



巨釜と半造は遊歩道で結ばれており、巨釜レストハウスから折石を見て、半造レストハウスまでは約1.7km、40分です。また、半造から御崎キャンプ場までは約5.3kmの探勝歩道があり、ハイキングなどに最適です。

海沿いに広がる 自然と歴史を学ぶ

野蒜・矢本海浜緑地ゾーン

海岸線に広がる矢本海浜緑地公園の周辺には、歴史深い運河や築港跡もあり、歴史を学びながら自然観察が楽しめます。



北上運河

自然観察に最適な 2つの公園

海岸線につくられた矢本海浜緑地公園の敷地は約150ha。園内には水辺広場や野鳥の広場、広い芝生や遊歩道、サイクリングロードなどがあります。町内の西方にある滝山公園はソメイヨシノや八重桜などの桜の名所。雑木林からなる遊歩道もあり、森林浴や野鳥の観察も楽しめます。

運河のシンボル・クロマツ並木と そこに集まる様々な野鳥

石巻市蛇田の北上川右岸から、矢本町大曲を経て鳴瀬川の河口に延びる延長11.6kmの北上運河沿いにはクロマツ並木が続き、他にもオオシマザクラ、ヤマザクラなどの樹木が見られます。北上・東名運河沿いでは、サギ類やカモ類、ツグミ類など約50種類ほどの鳥類が観察できます。

幻の近代港湾 野蒜築港計画

明治9年の明治天皇東北巡幸の際、白羽の矢が立ち、大久保利通の視察で野蒜築港が決定。明治11年に着工し、15年に第一期内港工事が完了するものの、17年の台風で崩壊し、幻の築港となりました。現在は煉瓦造りの橋脚や鳴瀬川河口の突堤跡の捨て石だけが当時を物語っています。

親水池や遊歩道もある 全国初の運河交流館

野蒜築港の際、北上川と新港を連絡するため開削された北上運河の水位を一定に調節し、船の往来を安全に行うため設けられたのが「石井閘門」です。親水池や遊歩道もある隣接の「北上川・運河交流館」では、映像やマルチメディアで運河を紹介しています。

明治、大正、昭和期の 重要な舟運路、北上・東名運河

幻の野蒜築港の付帯工事としてつくられたのが北上・東名運河です。北上運河は明治11年に着工となり14年に完成(12.8km)、東名運河は16年に着工され、翌年完成(3.3km)しました。明治、大正、昭和にかけて様々な船が往来し、石巻と塩竈方面の物資輸送に活躍しました。



矢本海浜緑地公園のサイクリングロードは、運河や定川沿いを走る爽快な道。野蒜築港跡からサイクリングロードを通過して公園までは約3.4km。公園内の散策路は、15haの芝生の広場を結ぶ総延長10kmの道で、野鳥の観察やハイキング、キノコ狩りなどが楽しめます。



■みやぎの自然体験イベントカレンダー

※天候により中止される場合もあるので
各市町村へお問い合わせください。



1月

●やくらい元旦登山 (小野田町)
問い合わせ先/0229-67-2111 (商工観光課)



7月

●伊豆沼はすまつり (若柳町)
問い合わせ先/0228-32-2121 (企画商工課)

2月

●白鳥観察会 (大河原町)
問い合わせ先/0224-53-2111 (商工観光課)



8月

●わらじで歩こう七ヶ宿 (七ヶ宿町)
問い合わせ先/0224-37-2111 (観光課)



3月

●浜まつり (利府町)
問い合わせ先/022-356-9114 (産業課)



9月

●北上川フェア (石巻市)
問い合わせ先/0225-95-1111 (建設部)

4月

●やくらい春まつり (小野田町)
問い合わせ先/0229-67-2111 (商工観光課)



10月

●七ツ森湖畔公園紅葉狩り (大和町)
問い合わせ先/022-345-1111 (商工観光課)



5月

●栗駒山夏山開き (栗駒町)
問い合わせ先/0228-45-2111 (商工観光課)



11月

●岩出山バルーンフェスティバル (岩出山町)
問い合わせ先/0229-72-1211 (商工観光課)

6月

●ホタル観賞会 (金成町)
問い合わせ先/0228-42-1111 (生涯学習課)



12月

●カキいかだクルージング (気仙沼市)
問い合わせ先/0226-22-6600 (観光課)



■県自然環境保全地域・緑地環境保全地域 (名称、位置、指定年月日 ※平成12年3月末現在)

県自然環境保全地域	伊豆沼・内沼	迫町、築館町、若柳町	昭和48年8月17日	斗蔵山	角田市	昭和54年3月16日
	篁岳山	涌谷町	"	東成田の自然林	大郷町	平成10年3月10日
	仙台湾海浜	仙台市、名取市、岩沼市、亶理町、山元町	"			
	太白山	仙台市	"	蕃山・斎勝沼	仙台市	昭和51年8月3日
	樽水・五社山	名取市、村田町	"	加瀬沼	塩釜市、多賀城市、利府町	昭和48年8月17日
	釜房湖	川崎町	"	県民の森	仙台市、富谷町、利府町	"
	谷山	川崎町、村田町	"	丸田沢	仙台市	"
	御嶽山	花山村	昭和54年3月16日	権現森	仙台市	"
	一桧山・田代	鳴子町、花山村	"	加護坊・篁岳山	涌谷町、田尻町	昭和59年5月1日
	鱒淵観音堂	東和町	"	深山	角田市、山元町	昭和61年11月7日
緑地環境保全地域	魚取沼	宮崎町、小野田町	"	高館・千貫山	仙台市、名取市、岩沼市、柴田町	昭和61年12月26日
	翁倉山	津山町、北上町	"	愛宕山	亶理町	平成5年8月31日

■環境学習に利用できる県内の施設

1	斎藤報恩会自然史博物館	仙台市青葉区本町2-20-2	022-262-5506
2	仙台市片平市民センター広瀬川展示コーナー	仙台市青葉区米ヶ袋1-1-35	022-227-5333
3	仙台市科学館・台の原森林公園	仙台市青葉区台原森林公園4-1	022-276-2201
4	仙台市環境学習コーナー	仙台市青葉区国分町3-7-1仙台市役所内	022-261-1111
5	仙台市天文台	仙台市青葉区桜ヶ丘公園1-1	022-222-6694
6	仙台市博物館	仙台市青葉区川内三の丸跡	022-225-2557
7	東北大学薬学部附属薬用植物園	仙台市青葉区荒巻字青葉	022-217-5900
8	東北大学理学部自然史標本館	仙台市青葉区荒巻字青葉	022-217-6767
9	東北大学理学部附属植物園	仙台市青葉区川内	022-223-8557
10	仙台市リサイクルプラザ	仙台市青葉区郷六字葛岡57-1	022-277-8573
11	宮城県環境情報センター	仙台市宮城野区幸町4-7-2保健環境センター内	022-257-7184
12	宮城県保健環境センター	仙台市宮城野区幸町4-7-2	022-257-7181
13	仙台市農業園芸センター	仙台市若林区荒井字切新田13-1	022-288-0811
14	秋保大滝植物園	仙台市太白区秋保馬場大滝5	022-399-2761
15	仙台市秋保ビジターセンター	仙台市太白区秋保町馬場字本小屋16-1	022-399-2324
16	仙台市太白山自然観察の森	仙台市太白区茂庭字生出森36-63	022-244-6115
17	仙台市八木山動物公園	仙台市太白区八木山本町1-43	022-229-0122
18	仙台市野草園	仙台市太白区茂ヶ崎2-1-1	022-222-2324

19	泉ヶ岳青年の家	仙台市泉区福岡字岳山9-6	022-379-2311
20	泉ヶ岳少年自然の家	仙台市泉区福岡字岳山9-4	022-379-2151
21	仙台市こども宇宙館	仙台市泉区七北田字二本柳104	022-373-0388
22	宮城県水産研究開発センター	石巻市渡波字袖ノ浜97-6	0225-24-0138
23	北上川・運河交流館	石巻市水押3-6-1	0225-23-3854
24	ササニシキ資料館	古川市駅前大通1-5-18	0229-22-5661
25	大崎生涯学習センター	古川市稲葉字亀ノ子111-1	0229-91-8611
26	気仙沼岩井崎プロムナードセンター	気仙沼市波路上崎野1-7	0226-27-4791
27	スペースタワー・コスモハウス	角田市角田牛館100	0224-63-5839
28	東北歴史博物館	多賀城市高崎1-22-1	022-368-0101
29	蔵王少年自然の家	蔵王町遠刈田温泉字上の原155-1	0224-34-2101
30	宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター「ことりはうす」	蔵王町遠刈田温泉字上ノ原162-1	0224-34-1882
31	山元町歴史民俗資料館	山元町浅生原字日向13-5	0223-37-1111
32	県民の森	利府町神谷沢字菅ノ沢41	022-255-8801
33	昭和万葉の森	大衡村大衡字平林117	022-345-4623
34	荒沢自然館	小野田町字鹿原田谷地1-2	0229-67-5020
35	垂炭記念館	三本木町三本木豆坂63-24	0229-52-6232
36	鬼首地熱発電所PR館	鳴子町鬼首字荒雄岳2-5	0229-82-2141
37	鳴子熱帯植物園	鳴子町字星沼15	0229-87-2011
38	林業館	鳴子町鬼首字本宮原23	0229-86-2530
39	サンクチュアリセンターつきだて館	築館町字横須賀養田20-1	0228-22-7151
40	伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	若柳町字上畑岡敷味17-2	0228-33-2216
41	鉱山資料館	鶯沢町南郷北沢向6-1	0228-55-2934
42	国立花山少年自然の家	花山村字本沢沼山61-1	0228-56-2150
43	こもれびの森 森林科学館	花山村草木沢角間10-7	0228-56-2330
44	迫町サンクチュアリセンター	迫町新田新前沼254	0220-28-3111
45	及基と源氏ポータル交流館	東和町米川字軽米87-4	0220-45-2577
46	松島野外活動センター	鳴瀬町野蒜字洲崎71-202	0225-88-3388
47	志津川海洋青年の家	志津川町戸倉字坂本88-1	0226-46-9044
48	志津川町自然環境活用センター	志津川町戸倉字坂本40	0226-42-9109
49	もくもくランド	津山町横山字細谷24	0225-69-2518
50	唐桑半島ビジターセンター	唐桑町字崎浜4-3	0226-32-3029

地域指定・環境学習施設位置図



■ 自然環境保全地域
■ 県緑地環境保全地域

市町村環境行政体制

市町村名	自然保護担当	環境担当	電話番号
仙台市	環境計画課・緑政課・緑地計画課	環境計画課・環境対策課	022-261-1111
石巻市	農林課	環境課	0225-95-1111
塩竈市	水産課・施設課	環境課	022-365-3377
古川市	農林課	生活環境課	0229-23-2111
気仙沼市	農林課・商工観光課・都市計画課	生活環境課	0226-22-6600
白石市	農林課・商工観光課	生活環境課	0224-25-2111
名取市	農政課・クリーン対策課	クリーン対策課	022-384-2111
角田市	農林課・環境保全課	環境保全課	0224-63-2111
多賀城市	農政課・施設課・生活環境課	生活環境課	022-368-1141
岩沼市	農政課・生活環境課	生活環境課	0223-22-1111
蔵王町	農林課・商工観光課	町民課	0224-33-2211
七ヶ宿町	農林課・企画課・商工観光課	企画課・民生保健課	0224-37-2111
大河原町	農政課・企画課・商工観光課	町民生活課	0224-53-2111
村田町	農林振興課・企画財政課	生活環境課	0224-83-2111
柴田町	農政課・企画調整課	保健環境課	0224-55-2111
川崎町	農林課・企画財政課	町民課	0224-84-2111
丸森町	農林課・商工観光課	町民課	0224-72-2111
亘理町	農政課・保健環境課	保健環境課	0223-34-1111
山元町	産業経済課・保健環境課	保健環境課	0223-37-1113
松島町	農林水産課	町民生活課	022-354-5705
七ヶ浜町	産業課・都市計画課	環境生活課	022-357-2111
利府町	産業課・都市計画課・企画財政課	保健福祉課	022-356-2111
大和町	商工観光課	環境生活課	022-345-1111
大郷町	農政課	保健福祉課	022-359-5507
富谷町	農政課・都市計画課	生活環境課	022-358-3111
大衡村	農林課	保健福祉課	022-345-5111
中新田町	環境安全課・産業経済課	環境安全課	0229-63-3111
小野田町	林政課	町民課	0229-67-2111
宮崎町	産業課	町民課	0229-69-5111
色麻町	農林課	町民生活課	0229-65-2111
松山町	産業課	町民生活課	0229-55-2111
三本木町	農林振興課	町民生活課	0229-52-2111
鹿島台町	農林商工課	町民生活課	0229-56-2511
岩出山町	農村整備課・町民生活課	町民生活課	0229-72-1211
鳴子町	農林課・観光商工課	町民生活課	0229-82-2111
涌谷町	産業振興課	町民生活課	0229-43-2111

市町村名	自然保護担当	環境担当	電話番号
田尻町	農政商工課	町民生活課	0229-39-1111
小牛田町	産業振興課	町民生活課	0229-33-2111
南郷町	産業課	住民課	0229-58-1211
築館町	産業振興課	町民生活課	0228-22-1111
若柳町	農林課・商工観光課	町民生活課	0228-32-2121
栗駒町	農林整備課・商工観光課	保健福祉課	0228-45-2113
高清水町	産業課	保健福祉課	0228-58-3933
一迫町	農林課	町民生活課	0228-52-2111
瀬峰町	産業課	町民課	0228-38-2111
鶯沢町	産業振興課	町民生活課	0228-55-2111
金成町	農政課	町民課	0228-42-1111
志波姫町	農政課	町民生活課	0228-25-3111
花山村	産業課	住民課	0228-56-2111
迫町	農政課・商工観光課	町民生活課	0220-22-2111
登米町	産業課	町民課	0220-52-2111
東和町	農林課	福祉保健課	0220-53-4104
中田町	農政課	町民課	0220-34-2311
豊里町	産業振興課	町民課	0225-76-4113
米山町	産業課	町民課	0220-55-2111
石越町	農政課	保健センター	0228-34-2811
南方町	農政課	保健福祉課	0220-58-2111
河北町	産業課	保健課	0225-62-2111
矢本町	農林水産課・都市計画課	保健福祉課	0225-82-1122
雄勝町	産業振興課	保健福祉課	0225-57-3611
河南町	企画開発課・農政課	健康管理課	0225-72-2111
桃生町	産業振興課	保健福祉課	0225-76-2111
鳴瀬町	農林水産課・商工観光課	健康福祉課	0225-87-3111
北上町	産業課・企画課	町民課	0225-67-2111
女川町	水産農林課・商工観光課	環境保全課	0225-54-3131
牡鹿町	産業観光課	保健福祉課	0225-45-2113
志津川町	農林課・商工観光課	保健福祉課	0226-46-2600
津山町	産業課	町民生活課	0225-68-3111
本吉町	農林畜産課・水産商工課	町民生活課	0226-42-2600
唐桑町	水産農林課・商工観光課	環境衛生課	0226-32-3130
歌津町	水産農林課・企画観光課	保健福祉課	0226-36-2111

■ゾーン位置図



山・里山

1	二口渓谷ゾーン	10	荒沢湿原ゾーン
2	太白山・番山ゾーン	17	湯沼・荒雄湖ゾーン
3	蔵王・澁川ゾーン	18	伊豆沼・内沼周辺ゾーン
4	寒成山周辺ゾーン	19	花山湖周辺ゾーン
5	谷山自然公園ゾーン	20	平筒沼周辺ゾーン
6	深山緑地ゾーン	川	
7	船形山・升沢自然遊歩道ゾーン	21	広瀬川中流ゾーン
8	昭和万葉の森ゾーン	22	白石川小原渓谷ゾーン
9	七ツ森ゾーン	23	内川渓谷ゾーン
10	上街道ゾーン	24	江合川・新江合川ゾーン
11	栗駒山ゾーン	25	旧迫川・燕栗沼ゾーン
12	寒湯番所跡周辺ゾーン	26	追波川ゾーン
13	金華山ゾーン	海	
14	鱒淵川周辺ゾーン	27	浦生・井土浦ゾーン
湖沼・湿地		28	志津川湾周辺ゾーン
15	手代木沼周辺ゾーン	29	唐桑半島・大島ゾーン
		30	野蒜・矢本海浜緑地ゾーン